

全鉄連情報

平成20年12月16日刊

[第69号]

目次
P1 加盟団体報告
P1 鉄鋼課連絡会報告
P1 常任理事会報告
P2～3 鉄流懇報告

P3 企業消息
P3 会員入退会
P3 研修講座アンケート
P4 業況アンケート結果

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

加盟団体報告

(平成20年11月1日
～11月30日)

緊急事態に対処、金融不安とリスク管理の講演

△東北鉄鋼販売業連合会 (齋藤芳郎会長)

11月14日(金)第3回例会を仙台市内のブラザー軒で開催。齋藤会長は「荷動きが止まり緊急事態。民間の大型物件やオフィスの延期・中止が見られる。メーカーネットは値下げや据え置きで価格差が開いた状態である。特約店は売上激減と在庫損で厳しい冬を迎えるのが確実になってきた。在庫を減らしていこうとする危機意識はあるが、顧客は必要以上しか買わず、さっぱり減らない。ゼネコン倒産により不良債権が発生している。東北6県の倒産は増加している。不良債権をつかまないよう努めるしかない」と挨拶した。各品種の状況報告を行った後、会員の池田鋼機(鶴岡市)の村上豊社長が「金融危機とリスク管理について」と題し、講演した。「金融収縮が起こり、政府が対策を打っているが、鉄鋼特約店としては金融機関への信用対策や顧客の与信管理を考慮すれば、帳簿のうえでの収益以上のキャッシュフローが重要である。キャッシュが回っていれば貸し渋りは回避できる」と強調していた。

青年部が与信管理の勉強会

11月25日(火)東北鉄連青年部会は「せんだいメディアテーク」で与信管理の勉強会を開催した。講師には帝国データバンクの辻合正夫・仙台支店長を招いた。辻合支店長は「現場で行う与信管理」と題し、倒産のシグナルを見逃さない情報収集のポイント、調査会社を利用した信用調査などから説明した。取引先の信用が悪化した場合の対処として債権の減額化、取引条件の見直し、担保確保などを行い、取引打ち切りを決めた際の売掛債権の回収、商品引き揚げの注意点(自社及び他社製品の場合)を詳しく述べた。また、実際の倒産企業を取り上げて倒産に至る典型例を紹介。帝国データバンクの信用調査報告書の読み方を説き、取引先企業の業績や銀行取引、資金の現況、貸借対照表など留意点を開設した。なお、当日の出席者は約40名だった。

工場見学に36名が参加

△新潟県鉄鋼販売業連合会 (今井幹文会長)

11月19日(水)研修事業として新日本製鉄君津製鉄所などの見学会を実施。会員会社の経営者、中堅幹部、営業責任者など36名が参加した。当日、東京駅に集合した一行は貸し切りバスに乗り込み、アクアライン経由で富津市のアイ・テック東京支店に到着。大規模鋼材ヤードとC形鋼生産ラインを見学した。君津製鉄所では花坂眞・新潟支店建材マネージャーが案内。製鉄所の概要を視聴した後、工場見学ではお立ち台から第4高炉を眺め製鋼工場では第6連続铸造、厚板工場では圧延ラインを見

学。続いてニッテツコラムを見学した。厚板をプレス成型し、コラム組み立て、溶接を経てUコラム、W・Cコラムに加工される工程で徹底した品質管理を感じ取っていた。

関連会議報告

鉄鋼課連絡会

11月26日(水)

会場 鉄鋼会館804号室

出席 松淵・芳澤(経済省)林・木下(愛知)西村・山岸・佐藤(東京)阪上(大阪)今井(北海道)井上(神奈川)今井(新潟)南(石川)関本(1日役員・茨城)

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は120,300円前月比-6,000円、前年同月比+30,600円。経済産業省からは、緊急保証制度、予約保証制度などについて説明があった。詳細は鉄流懇本会議での松淵氏コメントを参照。

常任理事会

●11月21日(金)に実施した第5回鉄鋼営業中堅社員研修講座の模様と収支について事務局から報告があった。受講者は40社89名だった。

●今年の3月から継続して開催されている鋼材品質証明検討委員会は11月13日(木)に開催され、その概要について事務局より報告があり、未だ建設に係わる各業界の意見がまとめきれていない、とのことだった。

●平成21年合同新年賀詞交歓会は1月14日(水)予定されているが、例年どおりの実施要領となる。なお、幹事団体は全国厚板シャリング工業組合である。また、平成22年は1月15日(金)日本橋箱崎「ロイヤルパークホテル」にて開催することになった。

●12月の鉄流懇については、主管する日本鉄鋼連盟と協議し、休会することになった。

第405回鉄流懇概要

荷動き、市況など急落、在庫調整に注力

●東鉄連からの概況報告(山岸・佐藤)

△鉄筋…デベロッパの倒産が相次ぎ、直近破綻した3社合わせて1千億円ほどの負債が出ている。ゼネコンは工事の中断、見直しを頻繁に行っている。マンション工事の着工は皆無。価格動向が混沌としている。ゼネコンはすぐに買うこともないという姿勢だ。流通も明細がないので枠があっても消化できない。

△平鋼…荷動きは非常に低調。今後、下げ場面が想定されるので、極力、在庫を減らす方針である。頻繁に客先からの値引き要請がある。

△形鋼概況…10月部会調査では前月比で入庫8%増、出庫4%増、在庫横ばい。9月より10月が悪く、11月はそれ以上に落ちている。

△H形鋼…需要不振で出荷がおもわしくない。価格動向では上値と下値の差が大きくて、市況がいくらであるか言い表せない。在庫は増えている。物件の延期、中止が相次ぎ、荷動き停滞の大きな原因となっている。

△一般形鋼…契約残の消化が進み在庫が増加している。予想外の価格下落で、完全に逆さやである。

△C形鋼…10月分科会調査では、入庫14%減、出庫34%増、直接販売13%増、在庫11%減。

△広幅製品…10月分科会調査では入庫42%減、出庫7%減、直接販売28%増、在庫2%増。

△コラム…10月値上げに伴い仮需があった。市中は弱含み横ばい。100%転嫁できず採算割れである。

△薄板概況…在庫の余剰感強く弱含み。見積もりだけでなかなか商談が決まらない。

△冷延…重要がなく、在庫が多い。ユーザーなどからの値下げ圧力が強まっている。

△表面処理…建材、電機などの需要がない。下げて売っても量が捌ける状況ではない。

△厚板耳付き、切板母材…市中は多少の下げで落ち着いているようだ。これから最高値の玉が入荷する。価格修正があるだろう。建築は相変わらず悪い。建設機械、産業機械、造船にも陰りが出てきた。大型機械がキャンセルされ、先々不透明。また、設備投資関連が延期、中止になり、足元は悪い。

△中板・ホットコイル…先安感が台頭している。中心値がどこにあるか市況のつかみ所がない。在庫増加が懸念材料である。また、価格動向が非常に不安定である。

△厚板定尺…今年度まで需要過多であるが、来年度は供給が上回る。非常に厳しい。これだけ品物が動かないので手の打ちようがない。

△縞板…極度に落ち込んだ状況が続いている。サブシヤからの定尺注文が全くない。切板に関しては歩留り損が増大している。納期を間に合わせるためだけの残業が夏以降続いている。

△鋼管概況…在庫調整と与信管理に注力している。先行き下がるとの見方もあるが、時期的にいつなのか、見通せない。高炉が下げると大変な事態になる。

△高炉品…ガス管は荷動き低調で、大口案件の延期、中止の影響大である。今、買ったら下がるのではないかとの心理的重圧がある。シームレス管はリロールメーカー向けが好調。小径管はスポットの買い付けが入った。中径角は良くない。

△溶協品…月を追ってSTKは悪化。8月以降前年比マイナスが続いている。構造用は多めになっている。あまり申し込みをしていないのに在庫が増えたのは、買い控えと仕事のなさによるものである。

申し込みを絞っても在庫減らず

●OSAからの概況報告(阪上)

出るはずの秋需は壊滅状態。大型物件の延期、中止の話も多々ある。減退傾向が顕著である。1~2割の減少を聞いても驚かない、4割、5割減もある。建設、製造ともに減少。10月末在庫は横ばいか微増となる。8~9月にかけて申し込み圧縮をしたが、販売量未達で申し込みを更に圧縮した。地方末端流通は買い控え、出荷促進で在庫は減っているが、新たな発注はしないだろう

販売不振、先安感、流通の売り急ぎ、投げ売りで急激な価格下落となっている。

トヨタ減産発表、地区景況冷え込む

●愛鉄連からの概況報告(木下)

11月に入り、当地区の市場環境は悪化し、一段と厳しくなっている。トヨタ自動車の中間決算発表以降、この影響を被り、地区景況が急速に冷え込んでいる。トヨタ関連の設備投資は全面見直しとなり、ゼネコン、ファブに大きな影響が出ている。10、11月の落ち込みが著しく月次で赤字になる店が多くなっている。市況は各品種とも下落している。また、販売の向け先別で大きな値差がある。今後の市況展開は全く読めない。

製造業関連軒並みダウン

●神奈川からの概況報告(井上)

先般、地元の神鉄連の例会があったが、厳しい話ばかりだった。切板屋からは、東鉄が下げたからといって、すぐに下がるものではないが、ジリジリと足元から弱くなっており、量が落ち、残業もなくなったとのことだった。4年の手持ちがあるとされていた造船にもキャンセルが出ている。大手産業機械メーカーは30~40%の生産調整に入るそうだ。大型物件は延期、中止になっている。Mグレードファブは足元の仕事が薄い。市場では投げ売り、換金売りに走る向きもある。このような状況なので、無理せず嵐が過ぎ去るのを待つしかない。

在庫評価損に苦慮、荷動き急激に落ち込む

●新潟からの概況報告(今井)

いい話はない。当地区には自動車産業はないが、間接的に影響を被っている。荷動きは10月に10%ほど落ち込み、前記と比べると2割近い落ち込みになった。コイルセンターは7~8月の実績が良かっただけに、そこから急激に落ち込み3割、4割減は当たり前という感覚である。ステンレスも市況で撃たれている。扱い業者がどのような対応をしていくのか判らないが、やれることはコストを落として歩留りを向上させることだろう。スクラップや原材料の動向で製品価格は乱高下した。現状在庫評価損が出ることになるが、それが決算時にどのくらいになるのか、そのことで各社、頭を悩ましているのではないか。

製造業関連はさっぱり

●石川からの概況報告(南)

需要先でまあまあなのは耐震構造関係の補強工事、食品機械、製薬業界向け、風力発電などの環境プラント。公共の建築・土木は今がピークで、上下水道のメンテナンスはまあまあいいらしい。請け負う業者、施工は状況を理解しており、危ないところには仕事を出していない物作りはさっぱりで、好調と言われていた鉱山機械にも陰りが出てきた。

ダンゴ出荷され、困惑

●茨城からの概況報告(関本・1日役員)

学校の耐震補強工事、役所関係の案件がぼちぼち出ている。それ以外の物件が少なく県内では仕事が全然ない2ヶ月ほど前は、厚板が入り難かったが、現在では4ヶ月、5ヶ月相当の量が一気に入荷しており、扱い業者は困っている。

世界的な自動車販売減退、今後の影響を懸念

●林会長（総括）

鉄鋼を取り巻く環境は一段と厳しくなっている。特に厳しいのは自動車。販売減による減産が日本だけでなく世界中で起こっている。今まで自動車は一地域で落ちても他地域でカバーしてきた。今回は世界同時減産というかつてなかったことが発生している。特に地元トヨタの状況については報告にもあったように、本社が3割減となれば、概ね下請は5割、6割、7割減を強いられる。カンバン方式で元請けが在庫を持たない分、しわ寄せされるし、仕掛品もあるので減産幅がきつくなる。先般、西日本の関係先と話したが、三菱自工やマツダは輸出向けが9割で、更に極端な落ち込みとなり、2次、3次下請は2週間のうち1日か2日しか働いていない酷い事態になっている。世界中でこれほど自動車の落ち込みということは初めてではないか。それだけに薄板について、急遽高炉は減産強化の取り組みをしておられるが、どれほど落ち込むのか、その点が非常に不透明であろう。アメリカでも自動車大手3社が年内もつか、もたないか、民主党政権が何とかカバーするのか、様々に取り沙汰されている。どうなるか全く判らないが、この落ち込みは大変なことである。世界がまさに金融不安によって景気後退の只中にある。そして、その影響が自動車産業に顕著に現れている。我々鉄鋼流通は自動車産業の恩恵に浴した部分もあったが、初めての強烈な落ち込みが他業界にどれほどの影響を及ぼすのか注視している。

*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

中小企業の資金繰りを応援

●経済産業省（松淵）

東京商工リサーチによると、10月の全国の倒産件数は1,429件で今年最多、負債総額は1兆77億円。倒産件数は前年同月比で169件増で、10月としては2002年の1,790件以来、6年ぶりに1,400件を上回った。産業別では小売業、運輸業で今年最多を記録した他、建設業は4ヶ月連続で400件を超え、不動産業も前年同月比約5割増となっている。前月に続いて1兆円を上回り、負債10億円以上の倒産が今年2番目となる96件、大型倒産の多発が影響している。1～10月で上場企業の倒産が27件。9月が7件、10月は月間最多の8件でこのうち7件が不動産関連と建設である。1～10月では27件のうち10件が不動産関連と建設であった。相変わらず物凄くないで、前回も説明したが、8月29日に政府・与党で決定された「安心安全のための緊急総合対策」で、新たな保証制度が導入されることになった。10月21日に施行され、545業種が指定されたということは前回お話したが、もちろん鉄鋼関係も全部含まれている。その後、10月30日に麻生総理が世界的な金融不安に対する新しい経済対策、生活対策を発表している。信用保証協会による制度の緊急補償額は6兆円規模だったものを新たに14兆円追加し、20兆円規模に拡大している。また、セーフティネット貸付もあるが、政府系金融機関の貸付枠も現行7兆円規模だったものを追加し、10兆円規模とした。その結果、現在全体で緊急保証制度に指定された618業種が対象とされている。原材料価格高騰の影響が低い業種以外で、保証制度の対象となるのが約900業種と言われており、企業数では約7割、売上高で約8割をカバーする状況にな

っている。経済産業省は、中小企業の貸し渋り110番を各地に設定して、資金繰りの支援に力を入れている。業況が悪いので、このような制度があるので年末年始に向けて資金繰りの一助として適切に活用していただきたい。末端の流通在庫は調整が進んでいるとの報告があったが、薄板3品在庫などの増加が懸念されるため、今後、製販一体となった一層の取り組みを期待している

実需に見合った生産販売の見極めを

●小野会長

残念ながら良い話は全くなく、日々状況は悪化している。底が見えない、というのが現状を表しているといえる。これまで景気好調を支えてきた、自動車や製造業を含めたほとんどの需要分野が前途多難な状況にある。アメリカ発の景気後退は新興国も巻き込んで、よい国や地域が一つもない、全世界的に景気後退が起きているということだと思う。こうした状況下では、需要動向に注意を払い、今、我々ができることを、やるべきタイミングでやるということに尽きると思っている。JFEスチールとしては、在庫が大幅に増加傾向にある中、本当の実需に見合った、更には需要変化を先取りするといった生産・販売徹底していくことに尽きると考えている。

会員企業消息（平成20年11月1日～11月30日）

〔所在地・代表者変更など〕

○(株)ワテックス（東鉄連・鋼管）～本社所在地を千代田区神田須田町1-12-3アルカディアビルに移転。電話03-5207-6091、FAX03-5207-6093に変更した。

会員入退会（平成20年11月1日～11月30日）

〔入会〕

*該当事項なし

〔退会〕

湘南実業(株)・三新鋼商(株)（神鉄連協同組合）

第5回鉄鋼営業中堅社員研修講座を終えてのアンケート

11月21日（金）実施した表記講座のアンケート結果より、受講者のコメントを一部抜粋し、掲載。なお、本結果は受講した会社へ郵送済み。また、本アンケート結果を参照されたい方は事務局までご連絡ください。

○仲井社長の講演は大変勉強になりました。時間内に全部説明不可能なたくさん資料を用意してくださいました。最後のご自身の体験談が、良かったです。同じ体験をしないよう注意します。

○せっかく浦安に来たので、先進的な問屋倉庫の流通システムを見学したかった。

○「財務諸表の見方と与信管理」「人を育て・やる気を起こさせる『叱り方』」は良かった。今後、実務に役立てたい。

○ITもすごいのですが、鉄屋はまだまだ人間力の方が強いと思う。アナログ人間の比率が高い。

（了）

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について (2008年11月)

発表項目	鋼管 メタルワゴン	薄板 住友商事	厚板 阪和興業	棒鋼・形鋼 メタルワゴン
1. 需給動向(景況感)	造船向け紐付きは堅調であるが、自動車向け及び建産機向け紐付きの落ち込みが顕著となってきた。建設向けは低調に推移しており、店売り向けも価格の先安感がマナーケットに於いて台頭しており、申し込みは総じて低調。	9月末の薄板三品在庫は441万トンと前月比12万トン増加した。メーカ、問屋、コルパカ-すべての在庫が増えているが、中でもメーカ在庫が8万増え、増えが必要の急減に生産調整が追い付いていない。すべての分野において実需が冷え込んでおり、先安感から幾ら下げても買い手が尻付からならない状況。高炉5社は、下期に合計200万トンの減産を発表しているが、それ以上の減産を強いられる公算が高い。	建築需要は、中小物件が低迷、期待された大型物件も縮小・延期や中止となる案件も続出。また、建設機械の生産計画下方修正を受け、市中溶断業者の仕事量は減少傾向。市中在庫の逼迫感も薄れつつある。足下は造船需要が依然高水準なことから、メーカー引受はタイト感継続ながら、輸出の減少も影響し先行き不透明感もでてきている。	7月以降スチール価格は急落してきたが、直近では、世界的にスチール価格反発の兆しが出てきたことで、形鋼/棒鋼の製品相場においても底値感の醸成とそれに伴う物件の仕入が期待されるが、季節的には不需要期に入る事もあり、当面、市況は弱含みで推移すると思われ
2. 需要産業動向	自動車・建産機向け紐付きの生産調整により、機械構造用鋼管のミル出荷及び2次加工メーカ(引抜メーカ)の出荷が大きく減少している。又、自動車運搬船のキャセナルといった、他産業への波及も見られる。建設分野は引続き低調。プラント分野は新規PJの延期・中止案件が目立ってきている。	9月の自動車生産台数は、105.7万台と前月に比べるると28.7万台増えているが、10月以降は国内販売・輸出ともに急減する見込みであり、自動車メーカ各社は下期以降、大幅な下方修正を発表。9月の新設住宅着工戸数は9.7万戸と前月並み低水準で推移。	08年10月の輸出船契約は前年同月比84%減の572千GT。手持工事量は、6,995万GTで、前月比100万GT減となる。建設機械は、9月度出荷金額2,732億円、前年同月比9.8%増(内需6.8%減、外需20.4%増)となるが、10月以降は生産計画下方修正を受け、減少必至。橋梁は、各ファブの手持工事量多く、ファブ・指定シヤ-共に稼働は高水準推移。	足下でのマジンソン事業の冷え込みは深刻化。'08年の全国のマジンソン販売戸数は16年ぶりに十戸を割り込む事が確実となった。また、世界経済の急速な悪化とそれに伴う国内景気の下振れ懸念からくる設備投資の見送り/中止が相次いでいる。
3. 輸出入動向	9月の鋼管貿易は、輸出入共前月と同レベル。	9月の薄板三品輸入実績は、22.1万トンと前月比2.8万トン減少。時に熟延が3.5万トン(▲25%)と大きく減少している。一方で、9月末の輸入材岸壁在庫は21.7万トンと前月比+9千トンとなっており荷動きの悪さを浮き彫りにしている。中国、韓国の内需も落ちており、円高進行も相俟って今後、周辺国からの輸出攻勢が懸念される。	輸出は、ラインパイプ用UO管等で減少傾向。9月の輸入実績は、15,859トンで前月比7,593トン減。内中国からが12,486トンで5,491トン減。	輸出：形鋼/ビレット共、輸出市場は現実的には存在しない状況。特に、韓国向けについては、先行きの不透明感強く、年明け以降も回復の見込みが持てない状況。 輸入：H形鋼については、直近の成約はC&F68千円程度で、国内材に比し割安感あるものの、現状は品質的にも土木用途限定。本年1-9月期の月間平均輸入量は6千トン強。内95%が中国材。
4. 海外市場動向	油井管・ラインパイプマナーケットは、資金繰り等の問題がある一部の海外在庫店向けへの商談停滞があるものの、大手ユ-ザー向け商談は引続き堅調。	米国の大手金融機関の破綻に端を発した金融危機は欧州やアジアにも波及し、急激な信用収縮が実体経済に悪影響をもたらした。欧米の経済は既に景気後退局面に入っており、高成長を持続して来た中国経済も変調を来たとし始めている。高炉メーカは各国で大幅な減産を計画しており、来年度の鉄鋼原料価格交渉は買い手主導となる見込みが高い。	海外ミルは急激な需給緩和、国際市況の下落を受け、対日オファーも安値提示あり。	韓国と台湾の国内鉄筋価格は暴落。特に、台湾では、日本円で3万円台半ばまで下がっており深刻な状況。北米も大統領選挙も終え、経済対策を軸として、雇用確保も含めた産業の活性化に期待が高まっているが鉄鋼は更に減速しており、脱出の糸口が見えない状況。
5. トピックス				国内高炉各社も世界経済悪化の波を受け、減産対応を余儀なくされてきており、一部高炉メーカの店売り向けH形鋼については1-2月度の引受けはストップとなった。

発表者 発表項目	電炉 ダイワスチール	高炉 住友金属工業
1. 需給動向 (景況感)	<p>① 08.7~08.9月のRCの着工面積 前年比 全国 +5.0% / 近畿 +3.1% (06年比 近畿 ▲2.8%) 08.9月のRCの着工面積 前年比 全国 +1.56% / 近畿 +1.01% *前年の反動増 ② マンションの着工戸数 08.7~9月 前年比 全国 +9.2%、首都圏 +1.44% 近畿 +3.7% マンション新規契約率 08.10月 首都圏 6.3% 近畿 6.2% ③ 08.9月の小森メーカーの生産量 前年比 全国 ▲8.5% 関東 ▲7.8% 関西 +23.3% (前月比 ▲4.5%) * 昨年工事を行ったメーカーの反動</p>	<p>◆ 国際的な金融危機が各国経済に深刻な影響を及ぼす中、わが国においても個人消費・雇用・生産活動等ほとんどの経済指標が悪化を続けるなど景気は後退局面に入ったとみられており、先行きの不透明感も一層強まっている。</p>
2. 需要産業動向	<p>① 関西のマンションの新規供給戸数(08.1~10月) 19,015戸(前年比▲2.4%) マンションの契約率は、10ヶ月70%割れと低調。ダイペロツパの経営破綻・購入マイノンドの冷え込みもあり、当面は、低調に推移。 また、製造業の設備投資見直しも重なり、需要は減少傾向にある。 ② 商社のゼネコンとの新規契約量は、大幅に減少しており、メーカーの契約残も大きく減少。 ③ 上期の値上局面での仮需と当初予定物件の時期のズレ、物件の消滅のために、鉄筋加工屋および特約店の倉庫には鉄筋の在庫が溜まっているが、足元の着工面積を考えると、徐々に解消されると考えられる。 ④ 準大手・中堅ゼネコン各社の中間決算；ほとんどの会社が、最終損益が赤字。</p>	<p>◆ 上期まで総じて堅調さを保持していた製造業分野でも景気悪化の影響がみられ、生産活動の減速が鮮明になっている。 ◆ このため、9月の普通鋼鋼材受注(内需)は前年同月比▲4.7%減と、建設用・製造業用ともに2ヶ月連続で前年割れとなった。9月末の普通鋼国内在庫は55.8万Tと2ヶ月連続の前月比増加となった。 ◆ また、10月の全国粗鋼生産量は前年同月比▲2.7%減の101.0万Tで、2.9ヶ月ぶりの前年割れとなった。</p>
3. 輸出入動向	<p>① 08.9月 ビレット輸出 77,091トン(前年比+5%) *台湾向けの実質ストップ (内訳 韓国 49,951トン、台湾 12トン ベトナム 9,133トン) 異形棒鋼輸出 48,562トン(前年比 +119%) (内訳 韓国 40,423トン、中国 452トン、アメリカ 6,937トン)</p>	<p>◆ 9月の全鉄鋼輸出は前年同月比+2.6. 5%の38.5万Tと、9月としては過去最高を更新した。</p>
4. 海外市場動向	<p>① 全世界の金融破綻および経済の悪化に伴い、完全に輸出がストップした状況にある ② 安価な中国材の影響もあり、アジア各国の市況も、大幅に下落</p>	<p>◆ 米国：製造業の不振のほか、住宅建設分野の需要が停滞しており、市況は全面安。 ◆ 中国：自動車、家電をはじめとして内需は伸び悩みをみせ、市況は下落基調を強めている。 ◆ その他、欧州等の主要市場でも市況は総じて下落基調。</p>
5. トピックス	<p>① 東京製鐵 スクラップ(特級)購入価格(公表値) 11月19日 岡山 陸 15,000円 宇都宮 14,000円 * 最安値 11月5日 岡山 12,500円 宇都宮 11,000円 ② スクラップの足元の入荷が悪く、購入単価上昇傾向。</p>	<p>◆ 9月は中国の粗鋼生産が前年同月を下回るなど、世界の粗鋼生産もこれまでの増加基調から減少に転じつつある。</p>

11月25日締切で、当会役員167名に対し、このアンケートを行ったところ、94名(56.3%)から回答があり、その結果(太枠内)が下記の通りまとまりましたのでご報告いたします。
 *DI算出方法=(A×2+B×1-D×1-E×2)÷回答数×100

7割が前年同月比、数量減

【問1】貴社の10月(先月)の総売上金は、前年同月比べ如何でしたか。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	売上 前年比	A	B	C	D	E	計	10月 DI
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		10%以上増	5%以上増	ほぼ横ばい	5%以上減	10%以上減		
▲56	▲54	▲74	▲22	36	34	34	▲45	▲53	▲39	▲95	▲82	数量	8(9%)	3(3%)	17(18%)	22(24%)	43(46%)	93	▲96
▲24	▲38	▲53	4	4	110	110		+81	+95	+54	+72	金額	33(35%)	14(15%)	20(12%)	12(13%)	14(15%)	93	+43

全向け先で販売減深刻

【問2】貴社営業窓口から見て11月(今月)の販売量は前月比如何ですか。

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	販売量 前月比	A	B	C	D	E	計	11月 DI
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		かなり増加	やや増加	ほぼ横ばい	やや減少	かなり減少		
▲65	▲66	▲82	▲59	▲34	▲87	▲89	▲75	▲64	▲84	▲52	▲74	公共建設向		2	22	25	23	72	▲96
▲85	▲81	▲84	▲47	▲18	▲67	▲82	▲60	▲54	▲79	▲63	▲84	民間建設向		1	12	42	23	78	▲112
▲11	▲11	▲15	2	2	▲24	▲40	▲28	▲33	▲51	▲22	▲79	自動車向			5	28	9	42	▲110
▲39	▲44	▲47	▲8	1	▲41	▲59	▲48	▲41	▲67	▲36	▲63	その他需要家向		1	16	40	16	73	▲97
▲43	▲58	▲52	1	3	▲53	▲69	▲47	▲52	▲80	▲64	▲78	仲間取引		2	11	40	19	72	▲106
▲53	▲56	▲61	▲25	▲11	▲58	▲71	▲54	▲50	▲74	▲50	▲75	計		6	66	175	90	337	▲104

先安感で収益はさらに悪化

【問3】貴社の10月(先月)の企業収益状況は、如何ですか。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	企業 収益状況	A	B	C	D	E	計	10月 DI
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		黒字	赤字	収トソソ	若干赤字	赤字		
59	71	16	38	116	142	143	128	133	137	106	106		33(36%)	25(27%)	25(27%)	6(6%)	4(4%)	93	+83

冬場を向かえ減少傾向強まる

【問4】貴社における向う3ヶ月間の需要動向についての予測は如何ですか。

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	需要動向 予測	A	B	C	D	E	計	11月 DI
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		増加	微増	ほぼ横ばい	微減	減少		
▲36	▲59	▲29	18	2	▲32	▲30	▲28	▲26	▲34	▲4	▲98		1(1%)	4(4%)	15(16%)	25(27%)	48(52%)	93	▲124

全品種でさらに過剰感募る

【問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか。

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	需要状況 売込角虫	A	B	C	D	E	計	11月 DI	
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		非常に不足	やや不足感	ほぼ需要均衡	やや過剰感	非常に過剰			
±0	▲10	2	13	41	40	44	17	+15	4	▲8	▲35	鉄筋用丸鋼			1	26	21	4	52	▲54
▲2	▲10	▲6	10	19	15	26	11	▲2	▲4	▲7	▲20	構造用丸鋼			1	31	13	1	46	▲30
▲14	▲11	▲9	11	31	43	22	15	+9	▲4	▲14	▲40	平角鋼			1	29	19	2	51	▲43
▲29	▲35	▲3	37	86	97	93	56	+32	7	▲13	▲55	H形鋼			3	22	13	1	39	▲31
▲31	▲44	▲27	▲4	59	93	95	94	+80	58	+44	0	コラム			3	22	13	1	39	▲31
▲24	▲14	▲15	12	45	40	30	21	+8	▲11	▲20	▲51	小形山形鋼			2	26	27		55	▲45
▲24	▲14	▲13	13	49	48	34	16	+11	▲7	▲24	▲53	中形山形鋼			2	25	26	1	54	▲48
▲19	▲13	▲10	20	79	78	61	48	+31	12	▲4	▲40	溝形鋼			2	26	24	2	54	▲48
▲31	▲33	▲25	▲15	8	12	2	▲3	▲15	▲20	▲29	▲40	軽量形鋼C形			1	23	23		47	▲47
▲18	▲24	▲12	▲14	13	16	5	2	+3	▲3	▲14	▲22	軽量形鋼広幅			1	18	9	1	29	▲34
▲27	▲30	12	45	91	69	73	46	+32	2	▲2	▲43	冷延薄板			1	24	18	2	45	▲47
▲19	▲23	12	48	87	75	52	32	+19	▲3	▲17	▲48	熱延薄板				22	28	4	54	▲67
▲24	▲25	±0	36	82	67	57	34	+12	▲8	▲18	▲39	表面処理鋼板				20	21	2	43	▲58
▲24	▲28	39	100	135	98	65	34	+20	▲14	▲29	▲71	酸洗鋼板				15	23	7	45	▲82
▲18	▲13	11	69	92	78	48	44	+17	▲4	▲10	▲52	中板				27	28	5	60	▲63
38	47	63	90	105	122	102	88	+86	76	+66	+38	厚板	2	7	37	12			58	▲2
64	66	83	100	118	120	113	102	+110	100	+92	+70	極厚板	2	10	20	3			35	+31
▲14	▲4	▲4	5	42	49	20	25	+9	7	+4	▲26	縞板			1	29	16		46	▲33
▲22	▲29	▲17	▲9	22	26	13	10	+9	0	▲6	▲30	中径角			1	30	20		51	▲37
▲16	▲18	▲14	▲7	24	28	13	12	+13	0	▲4	▲21	ガス管・黒			3	34	16		53	▲25
▲18	▲23	▲17	▲6	23	25	15	2	+4	▲6	▲5	▲20	構造用鋼管			3	27	14		46	▲25
▲14	▲14	2	26	61	60	47	34	+24	7	▲2	▲30	計	4	43	533	387	33	1000	▲40	